

鋸落下防止金具の考案

中津川営林署 松下清平

1. はじめに

最近の山林事業は、製品・造林に限らず、飛躍的に機械化されたものの、腰鋸についてはなくてはならない貴重な、原始的道具の一つとも言える。

しかし、鋸鞘は重量も軽く、笹や枝条に触れて、鞘が逆かきになる状態が多いため落しやすく、造林事業のなかでも特に、地拵のように横になっている枝条を押しまくったり、又は、伐採予定地の境界刈り分けのように、一日何百メートルも刈りながら進んで行く作業を、指示されるたびに、TBMで話されるのは腰鋸をいかに落さぬようにするかということである。

職員の中でも、何回か落した経験をあじわい、宿命的である。

諦めずに捜す時間と、ときには見つからないこともあり、経費の節減と無駄な時間を省くため、私達は真剣に取り組んだ。

2. 考案の着眼点

(1) 鉄線(18#)を鞘につけて、柄の方に巻きつけた。

(2) 小さな“クサビ”を鞘に細い紐で取り付けておき、それをはめていた。

(1)・(2)の操作をしないと防止の役目を果たさないが、作業に追われてくると使用度合が多くなるため、(1)又は(2)の操作をはぶくので、たび重なるうちには落す結果になりやすいことがわかった。人間は、少しでも手間を省く性質がある。

そこで、考えられるのは鞘から鋸を絶対に、落さないようにするには、人為的の施錠方式ではだめである。

自動的に、施錠されるものとするには、部屋の出入口の扉の取手の如く、入るときは取手を廻して開錠し、出入後に、取手をはなし押すだけで施錠される。

これをヒントに、どのようにして鋸鞘に取り付けるかを考えた。

いくつかの試作品に挑戦し、遂に私達なりに目的を達成したので発表する。

3. 製作と経費

(1) 材 料

亜鉛引鉄板	厚さ 大きさ	0.3 mm 10×8 cm	1 枚
鋼鉄線	14 #	10cm	1 本
釘		5 cm	1 本
スプリング	直径 長さ	7 mm 3 cm	1 本

(2) 型 式

別紙図のとおり

(3) 経 費

簡単なものであり、個人で作成できるが、鉄工所に作成依頼したところ、材料費込みで1,000円で作成できるとのことである。

4. 使 用 結 果

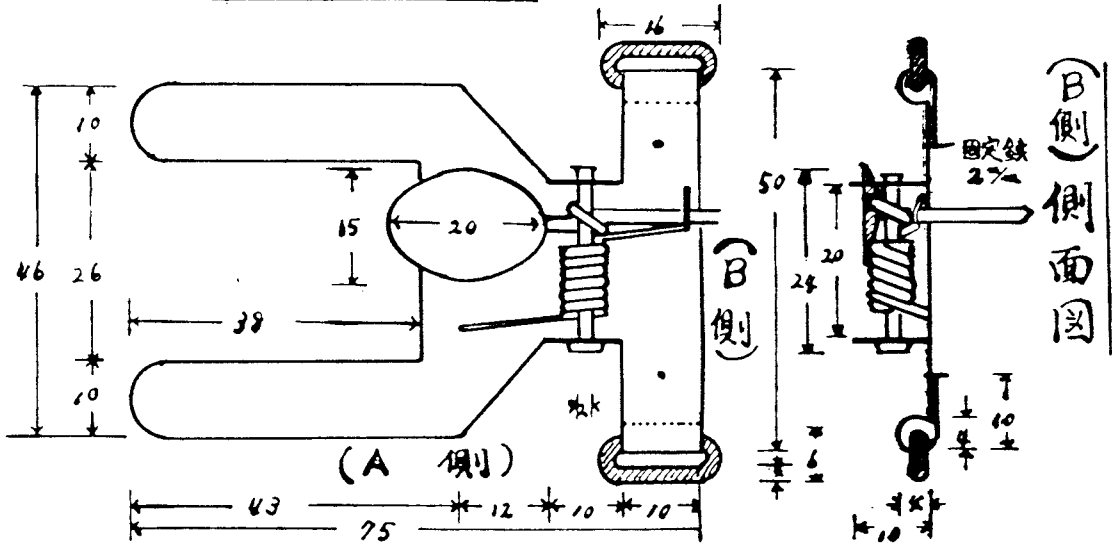
- (1) 小型で軽く、操作は簡単である。
- (2) どんな鞆にも、簡単に取り付けできる。
- (3) どのような所へ行っても、落す心配はなくなった。
- (4) 心配する気分(落さないかしら、落した人は、どこで落しただろうと、いらいらする)がなくなり、安全作業ができるようになった。

5. ま と め

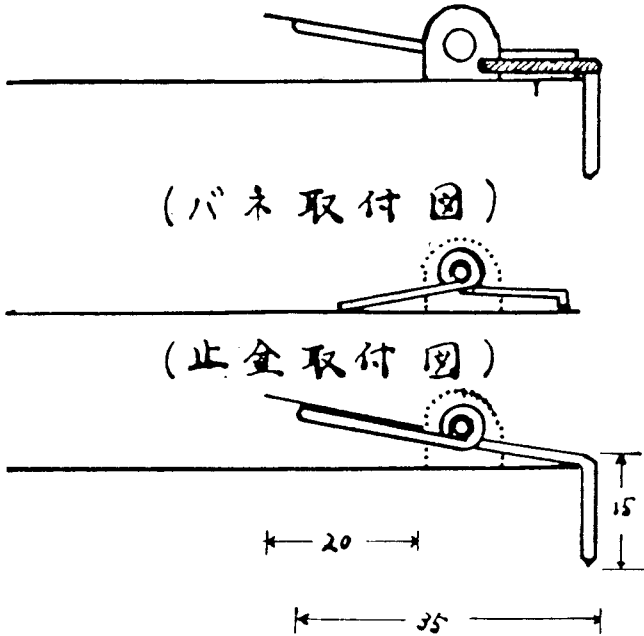
これはき細な考案であるが、班員全員で考案した事が班の和を保つ上で重要であり、今後も安全で、能率的に、しかも合理的な作業を実行するために、創意工夫をしていきたいと考えている。

鋸落下防止金具

平面図



(A側) 側面図



鋸落下防止金具取付図

